

「生まれてきてくれて ありがとう」

～ 家族の思いを伝える家族参観の道徳授業～

目標・ねらい

自分の誕生に対する家族の思いやその時に付けられた名前にこめられた願いを知り、家族の愛情を感じるとともに、家族への感謝の気持ちを高める。

友だちの発表を聞くことにより、自他の命を尊重する気持ちを持つ。

保護者が子どもからインタビューを受けたり、道徳授業に参加したり

することにより、家庭の中で子どもの誕生や成長、命の尊さなどに関する話題提供をする。

教育課程上の位置づけ
道徳

事前指導・経緯

保護者への周知 全校

- ・学校教育目標「思いやりのある子」育成の取り組みで、全校で「心の教育」をテーマとした授業参観を実施することを知らせる。

保護者への協力依頼 学年

- ・臨時の学年だよりで、活動の趣旨を知らせ、子どものインタビューに答えてもらうように依頼する。

【インタビューの内容】

自分が生まれたときの様子

そのときのうちの人の気持ち

つけてもらった「名前」の由来



自分の名前の由来を発表する子ども達

インタビューした内容は、児童自身でワークシートに記入するようにさせた。自分の誕生の様子やその時の家族の気持ち、また名前の由来等を聞いて書き取ることにより、授業参加の意欲が高まると考えた。

授業の準備

上記インタビューのワークシートの提出確認。(母子家庭・父子家庭等、家庭の状況によっては事前に保護者に内容を説明し了承をとることも必要である。)

八つ切り画用紙の4分の1程度の大きさの紙に、児童が自分の名前を心こめて書いたカード。

授業で使用するカード・短冊等の作成。(上記写真の中に使用している)

- ・「いのち」(ピンク色の台紙に水色で書いた「いのち」の文字をはった。)
- ・「みんなが生まれてきた時、家族はどんな気持ちだったのだろう」(学習のめあてとして提示)
- ・「世界に1つだけの自分の名前」(児童の名前を黒板に掲示する時の題)
- ・「生まれてきてくれて ありがとう」(自分の誕生に対する家族の気持ちを考えた時、児童から出したい重要なキーワードと考えた。授業の中心部分であるので、ピンクの用紙に書き、とくに「ありがとう」の部分強調するように表現した。)
- ・授業のまとめに使用する「家族への手紙」の用紙。

実施内容

- 一人一人が親からもらった、たった一つの「命」の誕生の様子を発表し合う。
- ・生まれた時の様子を発表し合う中から、親や家族の思いに気づく。事前に家族にインタビューした内容をもとに発表したが、「逆子」「妊娠中毒」などの言葉が出て、児童から「何のことだろう。」と疑問の声が聞かれた。そこで、発表した児童の保護者から説明をしてもらった。また、誕生の時の思いなども併せて発表してもらった。児童は感心して聞き入り、保護者は同じ思いという表情で発表を聞いていた。
 - ・家族の気持ちを想像した発表内容は板書し、赤チョークのハートの形で囲んだ。
 - ・児童の誕生やその後の成長を見守る中で家族が感じた思い＝「生まれてきてくれてありがとう」を確認する。短冊で掲示した後、参観している家族の数人に意見を求めると異口同音に「本当にそうですね。」と答えてくれた。
- 家族からもらった、もう一つの大切なプレゼントである「名前」の由来を発表し合う。
- ・ここでも、インタビューした内容を出し合ったが、初めて知る友だちの名前の由来に児童・参観の家族とも興味深く聞き合うことができた。
 - ・家族への思いを発表し、その思いを手紙に書く。
 - ・「いのち」と「名前」のプレゼントに対し、「生んでくれてありがとう」という言葉が児童から出た。その思いを手紙に書き、「今度はみんなが家族にプレゼントしよう。」と呼びかけ、家族への手紙を書いた。

事後指導

児童へ＝インタビューした用紙や家族に読んでもらった後の手紙などは、各児童の「心のノート」に貼り、児童が振り返ることができるようにした。

保護者へ＝授業参観後の懇談会でも話題になり、「命の教育」の大切さを確認した。また、一連の取り組みの感想を書いてもらい、事前に断ったうえで、児童の「心のノート」に整理して貼った。

家族への手紙から

- ・生んでくれてありがとう。お父さんのこんな子になってほしいという願いは、必ずかなえるよ。お父さんとお母さんと一緒にいて、本当に幸せだと思ったよ。

保護者の感想から

- ・心の教育についてこのような授業はとても必要だと思います。とくに最近のニュースなどを見ると、命の大切さを伝えたいと思います。この世に生まれてくるのを待っていた人がいたことや、大切にしてくれる人達が周りにいることをこれからも話題にしていこうと思いました。
- ・自分が生まれてくれたこと、友だちと遊べること、勉強ができることなど、いろいろなことに感謝して、自分の命、また他人の命を大事にして育ててほしいと思います。
- ・インタビューで名前の由来を聞いて、たいへん誇らしげに、又うれしそうに聞いていた姿が印象的でした。我が子が生まれたときの喜びやうれしさ、感動がよみがえってきました。

取組の評価

児童に自分の名前、友だちの名前にそれぞれの家族の思いがあることを理解させることができ、自他を尊重する気持ちを高め、また確認し合うことができた。授業参観で道徳の授業を展開し、授業中や授業後に保護者と共に話し合うことにより、児童の実態の理解を共有し、「心の教育」の重要性について共通理解することができた。学校と家庭とが協力して、子どもたちの「心の教育」を行っていくことの必要性を保護者にも強く感じてもらえた。今後も同様の取り組みを通して、命あるもの全てを愛おしむ気持ちを育てていきたい。